

20074

PAF Ablation 中に Sinus Node Artery に狭窄を生じ、PCI 施工し、SR に復帰した一例

<sup>1</sup>名古屋ハートセンター、<sup>2</sup>名古屋ハートセンター

西尾 皓人<sup>1</sup>、山口 敏和<sup>1</sup>、岡本 隆嗣<sup>1</sup>、西山 泉<sup>1</sup>、佐藤 公洋<sup>2</sup>、竹谷 昌直<sup>2</sup>

カテーテルアブレーションにおいて発生する合併症には心タンポナーデや脳塞栓症、空気塞栓、食道関連合併症など様々なものがある。今回、慢性心房細動に対するカテーテルアブレーションにおいて、右心房へCFAE アブレーション施行中、Sinus 電位を確認しながら焼灼を行ったにもかかわらず、Sinus Brady を呈し、冠動脈造影にて Sinus Node Artery の閉塞を認め、PCI 施行し、Sinus Rhythm に復帰した症例を経験した。この様な合併症に対する症例と共に、その後の対策について報告する。